



「音」が彩る大泉小の秋

副校長 半野田 聡

10月18日(土)、天候にも恵まれ、大泉スポーツフェスティバルを無事に開催することができました。児童一人ひとりがもてる力を最大限発揮する姿は、キラキラと輝きを放ち、観客の心をがっちりと掴んでいました。全力で打ち込む人の姿は美しいと改めて実感する時間となりました。当日を迎えるにあたり、保護者・地域の方・関係者のみなさんの多大なお力添えに感謝いたします。

懸命に演技や競技に取り組む子どもたちが大泉スポーツフェスティバルの主演であったことは言うまでもありませんが、大泉スポーツフェスティバルを盛り上げるのに一役買ったものの一つに「音」があります。演技を上げるために流れる各学年の曲、競技をより白熱させるアップテンポな音楽、応援団の掛け声、それに応える子どもたちの声、保護者のみなさんの声援など、様々な「音」が大泉スポーツフェスティバルに活気を与えてくれましたし、「音」がもたらす絶大な効果を改めて実感する瞬間でもありました。

改めて考えてみると、私たちの生活は、多種多様な「音」に囲まれていることに気づかされます。風のささやきや小川のせせらぎといった自然が奏でる音もありますし、人々の営みから生み出される音もありますが、いずれにしても私たちは音に浸かりながら生活をしていると言えるかもしれません。

自然発生的な音もたくさんありますが、古代より人間は音を利用しながら生きてきました。人類が複雑な言語を獲得する以前から、発声によって感情を伝えたり、集団の調整を図ったりしてきたと言われています。また、太鼓の音の高低や音色を使い分けることで、遠方へメッセージを伝えていたこともあったそうです。さらに、古代エジプトやギリシャでは、音に心身を癒す力があると信じられ、笛や竖琴を使って、心の安定を図っていたという記録も残っています。現在でも、音楽を聴いて、心をリラックスさせたり、集中力や記憶力を高めたり、運動のパフォーマンスの向上を図ったりすることも多いのではないのでしょうか。また、演劇や映画といったものも、音楽があるからこそ、セリフだけでは伝えきれない情報を補完し、観客の感情に働きかけ心を揺さぶることができるのではないのでしょうか。音楽は、私たち人間が音から紡ぎ出した生活に欠かせない偉大な芸術だといえます。音楽は昔から理性的で普遍的な宇宙の法則を解明する学問と見なされたり、伝統を伝える手段として利用されたりするなど、時代を超えて重要視されてきました。そして何よりも、聴く、演奏する、共演する、創造する、共有するといった多様な側面から楽しめる音楽のすばらしさに人々は魅了されてきました。今後、ますます科学技術が発達していても、音楽のもつ魅力は決して廃れることはないでしょう。

11月21・22日には、2年に1度の「音楽発表会」を開催します。現在、各学年がそれぞれの色を大切にしながら練習に取り組んでいます。練習時間は限られていますが、大泉スポーツフェスティバル同様、舞台を楽しみながら子どもたち一人ひとりが力を発揮して、会場全体に響き渡るハーモニーを奏で、大泉小の秋に一層彩りを加えてくれることを楽しみにしています。